

## 『冬の仲間』

桑原 紀子

葉っぱが落ちて木々のシルエットが見えてきました。残った柿を食べに小鳥達がやってきます。ベランダでシーツを干していると、シーツの向こうで、私に気づかない小鳥たちが、チージュクジュク、チリリ・・・と鳴きながら、熟した柿にくちばしを突っ込んで、美味しそうに食べています。メジロ、エナガ、シジュウカラ、小鳥達はひとしきり食べると、風に散る木の葉のようにパーと飛んでいきました。

冬は鳥達が急に身近に感じられます。落葉のおかげで、姿が見えやすくなると、冬鳥たちの訪れがあるからです。

広袴公園の調整池に行ってみると、カモの種類が クロアゲハ幼虫 増えていました。いつも池にいるのは、カルガモ、アイガモ、バン、カイツブリ、カワウ、サギたちですが、冬鳥として渡ってきたのは、マガモ、コガモ、オナガガモ、オカヨシガモたちです。 去年見たハシビロガモはまだのよう

です。 渡りの旅をしてきたカモたち。ゆっくり滞在してねと、思います。

冬の寒さの中で、季節はずれの幼虫が一匹、庭の柑橘類の鉢植えて、生きています。 秋の終わりから、少しずつ成長していたのですが、小さな柑橘類の葉を食べ尽くし、寒さに縮こまっているようでした。 心配になって、鉢にユズの葉の枝を挿し、部屋に入れました。じっとしているので、弱ったのかなと触ったら、ニュッと赤い臭角を出しました。 クロアゲハの幼虫です。 蛹越冬なので、小さくてもいいから早く蛹になって欲しいと思います。

しんとしていると、かすかにポリポリと聞こえるのは、ユズの葉を食べている音です。 ポリポリの音と、小さな黒い糞は、幼虫の生きている証です。

元気な冬の鳥たちと、季節はずれの幼虫、どちらも気にかかる私の冬の仲間です。

